

事業番号	★ D 23 - 2 - 135
要綱上の事業名称	復興地域づくり加速化事業
細要素事業名	野蒜海岸津波避難施設整備事業（測量・設計）
全体事業費	75,968(千円) 【平成29年度（測量・設計）】 18,408千円 ※今回申請 【平成29年度（工事）】 57,560千円（概算）

【事業概要】

野蒜海岸は、東日本大震災以前は、夏季だけで5万人が来訪する県内屈指の海水浴場であった。しかし、震災以降は、隣接箇所の復興事業の影響で、休止状態が6年間続いている。本市観光産業の要である同海水浴場の長期休止は、客離れや宿泊施設への影響を引き起こすほか、観光交流人口の回復の遅れにも繋がっている。（交流人口：震災前110万人、震災後：25万人、H28現在53万人）また、同海岸背後地は、広大な防災集団移転元地等であり、現状は未整備状態であることから、一体的に利活用を図ることが肝要である。さらに、周辺は平地が広がっており、緊急に避難できる建物等が無いことから、避難施設を整備することは、海岸利用者等の安全確保の観点から必要となっている。

本事業は、野蒜海岸の砂浜及び背後地の駐車場等の再整備に併せ、津波避難施設（防災棟）を整備するもの。今回は、整備にあたり測量及び設計業務を実施する。なお、本事業実施にあたり、新たに用地費等は発生しない。

【基幹事業との関連性】

野蒜地区は、防災集団移転促進事業による高台集団移転が進んでいる。広大な移転元地は、荒廃地として維持管理していくよりも、有効活用していくことが肝要である。

本事業は、野蒜海岸及びその背後地等の再整備に併せ、津波からの円滑な避難のための施設（防災棟）整備を行い、移転元地の利活用や賑わい再生を図ることで、防災集団移転促進事業の実施効果を促進するもの。

【事業予算内訳】

野蒜海岸津波避難施設整備事業 75,968千円（①+②）

（内訳）

- ①平成29年度（★D23-2-135） ※今回申請
測量・設計業務一式 18,408千円
- ②平成29年度（①事業完了後、申請予定）
整備工事一式 57,560千円（概算）

以上

※ この様式は、原則として、参考様式第29及び参考様式第32の別添2に記載した細要素事業ごとに作成してください。

※ 「全体事業費」は、細要素事業（当該細要素事業と一体不可分な事業を含む。）について、全体事業期間を通じての全ての事業費を記載して下さい。

※ 細要素事業の概要を示す図面を添付して下さい。

参考様式第29及び参考様式第32の別添3
市街地復興効果促進事業の概要を示す書類

事業番号	★ D 23 - 2 - 135
要綱上の事業名称	復興地域づくり加速化事業
細要素事業名	野蒜海岸津波避難施設整備事業（測量・設計）
全体事業費	75,968(千円) 【平成29年度（測量・設計）】18,408千円 ※今回申請 【平成29年度（工事）】57,560千円（概算）

【事業位置図】



- ※ この様式は、原則として、参考様式第29及び参考様式第32の別添2に記載した細要素事業ごとに作成してください。
- ※ 「全体事業費」は、細要素事業（当該細要素事業と一体不可分な事業を含む。）について、全体事業期間を通じての全ての事業費を記載して下さい。
- ※ 細要素事業の概要を示す図面を添付して下さい。

参考様式第 2 9 及び参考様式第 3 2 の別添 3
市街地復興効果促進事業の概要を示す書類

事業番号	★ D 23 - 2 - 136	1/2
要綱上の 事業名称	(35) 公共交通環境整備調査事業	
細要素事業名	東松島市地域公共交通運行実施計画策定事業	
全体事業費	10,325 (千円)	
<p>【事業概要】 東日本大震災以降、本市では防災集団移転促進事業や災害公営住宅整備事業等による新市街地形成等の影響で大規模な人口移動が発生している。復興事業の進捗に伴い、人口が集中した地域がある一方、人口流出による過疎地域も存在し、市内の人口分布に大きな影響を及ぼしている。このような現状に対応すべく、平成28年度の東松島市地域公共交通再編関連計画策定事業（★D23-2-103）により、復興の進捗状況に応じた公共交通計画の策定を行ったところである。 本事業は、その計画に基づき、実際に新たな公共交通サービスを導入するにあたり、実証運行を通して本格運行していくための計画を策定するもの。よって、市内公共交通に関する計画策定業務は、本事業が最終となる。</p> <p>【基幹事業との関連性】 本事業は、防災集団移転事業により市内の人口分布が大きく変容したことに起因して、既存の公共交通網では立ち行かなくなった現状を改善するため、新たな公共交通サービス導入に向けた運行実施計画策定をするものである。 東日本大震災後の本市の実態に即した地域公共交通サービスを提供することで、防災集団移転促進事業により移転した住民の生活環境を整え、その実施効果を促進する。</p> <p>【事業予算内訳】 東松島市地域公共交通運行実施計画策定事業 10,325千円</p> <p>(内訳) 東松島市地域公共交通運行実施計画策定業務一式 10,325千円 計画検討委員会開催、実証運行、運行実施計画策定ほか</p> <p style="text-align: right;">以上</p>		

この様式は、原則として、参考様式第 2 9 及び参考様式第 3 2 の別添 2 に記載した細要素事業ごとに作成してください。

- ※ 「全体事業費」は、細要素事業（当該細要素事業と一体不可分な事業を含む。）について、全体事業期間を通じての全ての事業費を記載して下さい。
- ※ 細要素事業の概要を示す図面を添付して下さい。

参考様式第 2 9 及び参考様式第 3 2 の別添 3
市街地復興効果促進事業の概要を示す書類

事業番号	★ D 23 - 2 - 137	1/2
要綱上の事業名称	(25) 市街地復興関連小規模施設整備事業	
細要素事業名	野蒜北部丘陵地区小規模コミュニティ施設整備事業	
全体事業費	60,537 (千円) 【平成27年度】 22,058千円 (測量設計等) 【平成29年度】 38,479千円 (工事) ※今回申請	
<p>【事業概要】 東日本大震災に伴う津波により甚大な被害を受けた野蒜地区は、高台である野蒜北部丘陵地区へ防災集団移転を行っている。野蒜地区の旧市街地は、大半が災害危険区域に指定されているため、多くの住民が高台へ移転しているが、元地にも現地再建者が点在している。そのため、移転元地で形成されていたコミュニティは大きく分断され、高台移転者と現地再建者との交流及びコミュニティ維持は今後の大きな課題の一つとなっている。 本事業により散策路を整備することで、親しみを感じられる既存の山道を通して高台と元地を行き来することが可能となり、高台移転者と現地再建者の交流の場として、コミュニティの再生と維持を図る。また、有事の際には、既存道路で避難が困難な場合の緊急的な避難路としても利用できる。 対象の散策路は既存道の面影が残っているものの、震災以降倒木や繁茂等による荒廃が進んでいるため、本事業において整地及び土留め階段、ロープ柵といった簡易な整備を行う。既存道を活用することで、整備内容及び事業費が抑えられており、整備後は市の後年度財政負担が生じないように、自治会と管理協定を締結した上での管理を予定している。</p> <p>【基幹事業との関連性】 本事業は、防災集団移転事業により、分断された既存のコミュニティを再生するため、新たな交流を図る場として、既存の山道に簡易な整備を行うもの。</p> <p>【事業予算内訳】 野蒜北部丘陵地区小規模コミュニティ施設整備事業 60,537千円 (①+②)</p> <p>(内訳) ①平成27年度 (★D23-2-81) 基本計画・測量・実施設計業務一式 22,058千円 ②平成29年度 (★D23-2-137) ※今回申請 工事一式 38,479千円</p> <p style="text-align: right;">以上</p>		

- ※ この様式は、原則として、参考様式第 2 9 及び参考様式第 3 2 の別添 2 に記載した細要素事業ごとに作成してください。
- ※ 「全体事業費」は、細要素事業 (当該細要素事業と一体不可分な事業を含む。) について、全体事業期間を通じての全ての事業費を記載して下さい。
- ※ 細要素事業の概要を示す図面を添付して下さい。

参考様式第29及び参考様式第32の別添3
市街地復興効果促進事業の概要を示す書類

事業番号	★ D 23 - 2 - 137	2/2
要綱上の事業名称	(25) 市街地復興関連小規模施設整備事業	
細要素事業名	野蒜北部丘陵地区小規模コミュニティ施設整備事業	
全体事業費	60,537 (千円)	【平成27年度】 22,058千円 (測量設計等) 【平成29年度】 38,479千円 (工事) ※今回申請

【事業位置図】



- ※ この様式は、原則として、参考様式第29及び参考様式第32の別添2に記載した細要素事業ごとに作成してください。
- ※ 「全体事業費」は、細要素事業（当該細要素事業と一体不可分な事業を含む。）について、全体事業期間を通じての全ての事業費を記載して下さい。
- ※ 細要素事業の概要を示す図面を添付して下さい。